

「月刊フェスク」409号 令和5年4月25日発行（毎月1回25日発行）

ISSN 1343-5116

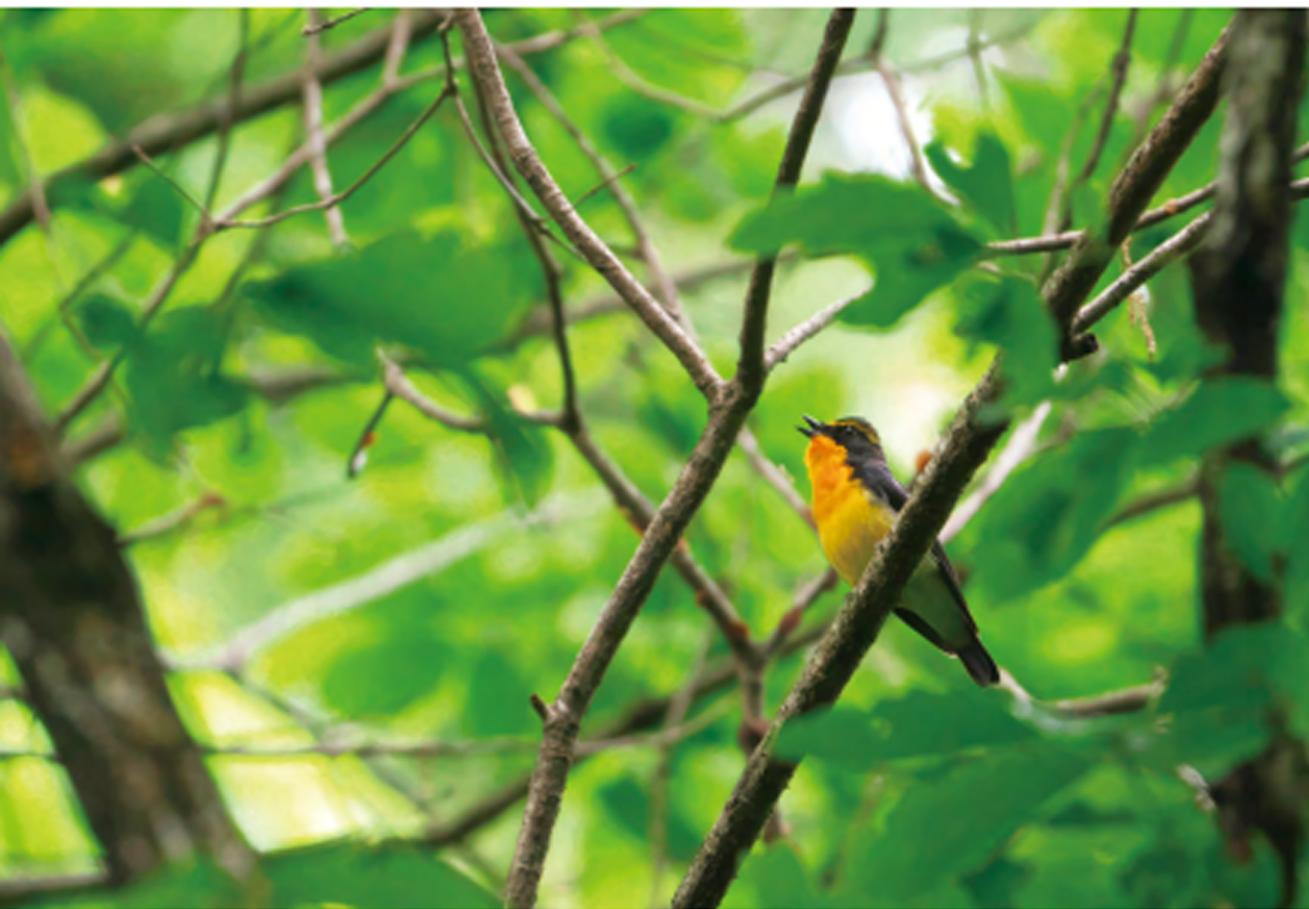
消防・防災関係者のための最新情報誌

月刊フェスク

Fire Equipment & Safety Center of Japan

5
2023

一般財団法人
日本消防設備安全センター



特別寄稿

災害情報の活用と発信 メディアが伝えない震災のほんとうの教訓とは

消防庁のうごき

「畜舎における消防用設備等の特例基準のあり方に関する検討部会報告書」について

浜と海を活用した地域防災を考えた「海上防災訓練」と「災害時等における支援協力に関する包括協定」の締結

リビエラグループ 渡邊華子

はじめに

リビエラグループは、都内の他、神奈川県内で「リビエラ逗子マリーナ(逗子市)」「リビエラシーボニアマリーナ(三浦市)」、静岡県の下田に拠点を構え、相模湾を面とらえて事業を行っている。2023年4月からは、「江の島ヨットハーバー(藤沢市)」の運営について神奈川県より指定管理の委託を受けている。また、海と陸の接合点であるマリーナを複数展開しているため、海の安全を守る連携体制が整っており、迅速で的確な救助活動を可能にしている。

さらに、青少年への海洋プログラムや環境教育などの海洋普及活動にも注力し、神奈川県「海上交通ルート」への参画も行っている。

2022年4月には、国際環境認証「ブルーフラッグ」マリーナ認証を、リビエラ逗子マリーナがアジアで初めて取得。この「ブルーフラッグ」認証は、30年以上の歴史がある海の環境認証であり、SDGs17のゴールすべてにかかわるプログラムの基準を満たした、ヨーロッパを中心としたビーチやマリーナ、観光船の約5,000が取得。そのうちマリーナは15%と狭き門であり、世界水準の「サステナブルマリーナ」と認められた証でもある。現在、日本での「ブルーフラッグ」認証の取得数は、7か所(ビーチ6か所、マリーナ1か所)。

リビエラのサステナビリティ(SDGsの取り組み)

リビエラグループでは、「自然の恩恵を受けて事業活動をしている」という思いから、1980年ごろから食を通じた地方創生に関わり、さらには気候変動への危機感から2001年マリーナ事業開始と同時に環境保全活動をスタート。2006年より環境・教育・健康医療(ウェルビーイング)を3本柱としたサステナビリティ「リビエラ未来づくりプロジェクト」を発足し、産官学と連携しながら全社員で取り組んでいる。この社会活動をさらに推進するため、2020年10月にはNPO法人を設立。

「LOVE OCEAN」

「リビエラ未来づくりプロジェクト」の取り組みの1つとして、「美しい豊かな海を守り魅力を発信」するため

に「LOVE OCEAN」プロジェクトを継続的に実施し、「人と人」「海とまち」をつないでいる。「LOVE OCEAN」とは地域振興を目的に、環境×観光を核として、広域でサステナブルな活動を行い「海から考える未来」を発信している。海も陸もつながっているからこそ、各海岸ではなく広域に捉えることが必要との思いから、相模湾を囲むエリアを「SHONAN Coast」と呼び、現在、神奈川県沿岸13市町連携(三浦、横須賀、葉山、逗子、鎌倉、藤沢、茅ヶ崎、平塚、大磯、二宮、小田原、真鶴、湯河原)で取り組みを進めている。回を重ねるごとに「LOVE OCEAN」エリアは拡大中。「リビエラ湘南ビーチクリーン」や「海のシンポジウム」をはじめとした、防災、観光、水産、海に想いを馳せたさまざまな活動を行っている。次回「第4回LOVE OCEAN」は5月13日～6月18日を予定。

【第4回LOVE OCEANイベント詳細ページ】



浜と海を活用した地域防災を考えた「海上防災訓練」の実施

地球温暖化による気候変動や、想定を超える異常気象による甚大な災害が世界的にも頻発している。災害から私たちの暮らしを守る防災(環境×防災)が、今まで以上に必要不可欠となる。

海路を活用し、人や物資の輸送をする「海上防災訓練」を、2022年11月に3市1町(逗子市・鎌倉市・藤沢市・葉山町)で実施した。ビーチクリーンに参加した一般市民に、海から人や物資の輸送ができることを体験していただくため、「LOVE OCEAN」の「リビエラ湘南ビーチクリーン」と同時開催。今回行った海上輸送訓練のルートは、「海上から浜へ」と「浜から浜へ」。

災害時に海路は貴重な輸送ルートとなる。また、通常の船は喫水が大きいため港への着岸に限られてしまうが、リポートや水上バイクを活用することで港が決壊しても浜(海岸)に上陸できることから、輸送地点の拡大につながると考えられる。



巡視艇「きぬがさ」からリビエラのリポートで物資を受け取り水上バイクを活用して浜(海岸)に物資を届ける「海上防災訓練」

また、海と山に囲まれた美しい湘南は崖崩れによる道路遮断等の災害時における地域の孤立が懸念されているが、この訓練の実施により、近隣地域同士の協力体制構築の一助となることを願っている。

①横須賀海上保安部と協働し、「海上から浜へ」物資輸送する海上防災訓練

森戸海岸(葉山町)と逗子海岸(逗子市)では、横須賀海上保安部と協働し、巡視艇「きぬがさ」から弊社スタッフが海上で支援物資を受け取り、リビエラのリポートと水上バイクを活用して浜(海岸)へと輸送した。

②地域が孤立した際の地域防災として、「浜から浜へ」物資輸送する海上防災訓練

3市1町(逗子市・鎌倉市・藤沢市・葉山町)を海路でつなぎ、リポートと水上バイクを活用して、「浜から浜へ(市町から隣の市町へ)」物資を輸送した。

「海上防災訓練」の振り返り

横須賀海上保安部長・池田聡氏からは、「リビエラが保有する船やリポートを使用し、陸路に代わる『海路』を確保することで、巡視艇だけでは対応が難しい浜にも海上から人や物資を輸送できます。この訓練を実施することは、海を守る海上保安庁としても地域の安全に寄与する素晴らしい取り組みで、地域防災に非常に役立ち、かつ、官民が連携して行うもので我々としても大変ありがたいものです」とコメントを寄せられた。

同時開催の神奈川県沿岸13市町をキャラバンし実施した、「リビエラ湘南ビーチクリーン」参加者の一般市民にも、海から物資が輸送されてくる模様を間近で見てもらった。それにより、「自分事だ」という身近な意識に変わった」「もしもの災害時に海から物資が運ばれて

くることは、とても有効だと感じた」「災害時に隣の市町と協力体制を築く上で、沿岸地域においては、海がとても活用できることが分かった」との感想を多くいただいた。

リビエラは、相模湾一帯が災害時に海を活用して支援し合える環境になることを願って、海と陸、近隣市町同士、人と人をつなげながら、広く発信している。

「災害時等における支援協力に関する包括協定」を逗子市と締結

リビエラ逗子マリーナがある逗子市は、海と山に囲まれた地域であることから、自然災害による崖崩れや道路遮断による地域の孤立、長期間のライフライン停止など、さまざまな課題があった。

CO₂削減を目指し、2012年よりEV普及活動を行うリビエラでは、停電などの非常時にEVを活用してホテルに電力を放電可能なV2B(Vehicle to Building)を導入した日本初のホテル「マリブホテル」をリビエラ逗子マリーナ内に2020年に開業。



マリブホテル



マリブホテルに導入のV2B（スマートチャージ、ワークプレイスチャージ）エコシステム

通常時は、ホテルの屋上に設置された太陽光パネルとEVのスマートチャージを用いてピークカットに努めるとともに、EV充電の平準化を行い、非常時にはEVのバッテリーを蓄電池として使用し、ホテルフロントの非常用電源として供給。「いつも」と「もしも」を両立し、環境に配慮している。

災害時に陸路に代わる輸送路の確保として「海路を用いた物資や人の輸送」、ライフラインとなる携帯電話等への電力供給確保などを視野に入れた「EVを活用した受電設備の提供」などを含めた「災害時等における支援協力に関する包括協定」を逗子市と2022年10月に締結した。

リビエラ逗子マリーナについて

日本有数のマリーナとして神奈川県逗子市に1971年に誕生、2001年リビエラグループが取得し「大人



逗子市との締結式（左：逗子市長 桐ヶ谷覚氏、右：株式会社リビエラリゾート 代表取締役社長 小林昭雄）

のマリーナリゾート」として展開。敷地内には、ヨットハーバー、ホテル（2軒）、レストラン（2店舗）、イベント会場、バンケット、リゾートマンション（9棟1,266戸）、テニスコート（4面）、ショップ等の施設を有する。2020年には『マリブホテル』と、レストラン『マリブファーム』がオープン。さらに2022年、トレーラーホテル『SPACE KEY POINT』がオープンし、マリーナリゾートとして進化し続けている。

「サステナビリティタウン・リビエラ逗子マリーナ」としての街づくりに取り組み、ゼロウェイストと大幅CO₂削減を達成する循環型農法や再生エネルギー活用などさまざまな活動でSDGsを推進している。

※転載の際には、下記へ問い合わせください。
 【お問合せ先】リビエラグループ PR担当
 Mail: pr@riviera.co.jp TEL: 03-5474-8120



リビエラ逗子マリーナ

